

学修要覧

(研究科編)

2021 年度入学者用

先端総合学術研究科

目次

【教学理念と人材育成目的】

研究科長からのメッセージ	1
研究科の教育理念	3
人材育成目的	3
学位授与方針（ディプロマポリシー）※学位論文審査基準／教育目標も含む	3
教育課程編成方針（カリキュラムポリシー）	4
入学者受入方針（アドミッションポリシー）	5

【教育課程の編成と履修概要】

1. 先端総合学術研究科について	6
1) 研究科概要	
2) 4つのテーマ領域と「核心としての倫理（コア・エシックス）」	
2. 履修にあたって	8
1) カリキュラムの概要	
2) カリキュラム表	
3) 科目区分、回生ごとの必要単位数および受講登録制限単位数	
4) 科目概要	
5) カリキュラムマップ	
6) 2021年度開講科目一覧	
7) 修了要件	
8) 履修指定科目	
9) プロジェクト予備演習Ⅰ～Ⅲと博士予備論文	
10) 望ましい履修のあり方（参考：履修モデル）	
11) 早期修了について	
12) 3年次転入学の方へ	
3. 博士予備論文・博士論文・学位授与について	17
1) 学修と課程博士（甲号）学位取得までの流れ	
2) 研究指導計画書について	
3) 構想発表会について	
4) 博士予備論文の提出について	
5) 修士学位の授与について	
6) 博士学位（甲号）の授与について	
7) 博士学位論文の提出要領	
8) 博士学位論文の全文インターネット公表について	
9) 研究倫理について	
4. F A Q	27
5. 関連資料（研究科則・内規・要領など）	32

研究科長からのメッセージ

— ダイバーシティのフロンティア —



先端総合学術研究科は二〇〇三年四月に発足した大学院のみの独立研究科で、五年一貫制の博士課程というのが特徴だ。じっくり腰を落ち着けて五年、ときにはそれ以上の時間をかけて骨太の研究を達成することを目標としている。

一七年目を迎え、私をはじめでの、創設時を知らない世代の研究科長となる。これまでの「学風」をどう継承するか、どう変革するか、あるいは、そもそもどんな学風だったっけ？と、COVID-19のため家にこもりながら考えている。

私自身は本研究科に着任して五年目だが、知る範囲での志願者・現役大学院生・修了生の印象を一言でいえば、「ダイバーシティ（多様性）」になる。

新卒で進学した院生のとなりに後期高齢者の社会人院生が座ったり、すでに他の研究機関やNPO法人や企業に所属している人びとがキャリアを中断して博士課程での学術研究に挑んだり、学問を志す出発点のもつダイバーシティに、しばしば驚かされた。こうした事情を反映して、修了生の進路は、いわゆるアカデミック・ポスト、つまり研究・教育機関への就職だけには留まらない。社会人としての元の活動の場所でのキャリアアップや博士号を有する社会人としての新しい視点からの活動を発展させていたりしている。

さらに、博士論文として公表されたり、いままさに進行していたりする研究のテーマや方法論の面では輪をかけて多様だ。エスニシティ、ジェンダー、健常／障害などでマイノリティとされてきた人びとが自らそれを研究テーマにするというのは一つのトレンドだったが、それだけではない。この面でのダイバーシティはもう紙面では表現のしようもないほどなので、本研究科が出している年報「コア・エシックス」や大学リポジトリに公開されている博士論文を検索して入手したり、それを元にして出版された書籍を手にとったりしていただくほかない。

いま、立命館学園は2030年に向けたビジョンワード「挑戦をもっと自由に～Challenge your mind Change our Future」を策定し、その大きな柱として「ダイバーシティ&インクルージョン（包摂）を実現する学園」との理念を掲げている。それをゼロ年代から実践してきたのが本研究科なのだ、ととりあえずは胸を張っておこう。

さて、私は着任して初めて知ったのだが、「先端総合学術研究科」（略称は先端研）という舌をかみそうな学科名は英語では“The Graduate School of Core Ethics and Frontier Sciences”（コア・エシックス・アンド・フロンティア・サイエンスズ）である。

サイエンスという語は現代では理系の学問領域を主に指しているが、もともとは知識一般を表していたので、複数形の「サイエンスズ」は「総合学術」に対応しているという趣旨でよい。

私の語感では、「先端」よりも「フロンティア」のほうが本研究科を表す言葉として適していると思う。なぜなら、「先端」は物事を分析して一つの狭い分野（尖端）に集中することに通じるが、「フロンティア」は既存の学問と学問の境界、学問と非学問の境界を越えて前に進むプロセスを意味するからだ。そのことを実践する院生や修了生の研究テーマと方法論の多様性は、本研究科の誇りであり宝である。

学問の対象とは思われてこなかった事象や物になるかどうかわからないテーマを研究したい学生には、ときに「立命館大学に先端某という大学院があって・・・」との進路指導が行われているとの真偽不明

の噂が一部にある。まったく上等だ。そう言われた人も自己診断でそう思っている人も、先端研に大歓迎である。もちろんそれだけではなく、本研究科の擁する教員陣—各学問領域での先端的な研究者たち—に憧れて、専門的な研究をバリバリ進めたい学生も大歓迎である。

さて、最後に残ったのは「コア・エシックス」、つまり「中核としての倫理」ないし「現代社会のコアをなす倫理問題」であるが、これは日本語の研究科名には存在しない。だが、この点を言葉を尽くして研究科長から説明する必要はない、と私は確信している。コア・エシックスが目指すものは、二〇二〇年三月までに本研究科から巣立った一二九名の博士号取得者たちと彼／彼女らが達成した研究成果に示されているからだ。

2021年4月1日

美馬達哉

研究科の教育理念

先端総合学術研究科先端総合学術専攻は、現代の諸科学分野に共有された主題群を「プロジェクト研究」によって追求することを通じて、新たな研究領域の創出を担う先端的で総合的な知の探求者、制作者としての研究者を養成することを目的としています。

本研究科は、先端的なテーマを総合的に研究し、研究者を養成するために、2003年4月に一貫制博士課程の独立研究科として開設されました。本研究科では「21世紀における公共性」（以下「公共」）、「争点としての生命」（以下「生命」）、「共生の可能性と限界」（以下「共生」）、「表象文化における伝統と技術」（以下「表象」）の4テーマ領域を設定し、「善き生のための再構築」を目指してきました。これらのテーマ領域の設定は、各領域の規定に共通する問いの源泉として「核心としての倫理(CoreEthics)」を置くかたちで、研究科全体の教育目的そこに収斂させるような工夫をカリキュラムに反映させています。

本研究科は13名の教員を擁し、教員が進めるプロジェクト研究に院生が積極的に関わるかたちでの一貫制博士課程教育を行っています。いずれのテーマ領域を極めようとするかは入学試験時に選ばせてはいるものの、入学後も本人の意思を尊重し、テーマ領域間の垣根を低くして、テーマ領域の変更を自由に行えるようにしています。それにより、新たな知の創出を担う研究者としての自覚をもち、そのために必要なスキルや知識、そしてコミュニケーション力をいかに発揮できる研究者の育成を目指しています。

人材育成目的

先端総合学術研究科先端総合学術専攻は、現代の諸科学分野に共有された主題群を「プロジェクト研究」によって追求することを通じて、新たな研究領域の創出を担う先端的で総合的な知の探求者、制作者としての研究者を養成することを目的としています。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）※学位論文審査基準／教育目標も含む

先端総合学術研究科先端総合学術専攻は、自らのテーマ・分野の専門的かつ最新の情報を収集し総合的に判断する能力をもち、同時にプロジェクトを通じて問題解決の方向を切り開いていくことができる国際水準の研究者の人材を育成することを目的としており、終了時点において学生が身につけるべき能力（教育目標）として、下記の5点を定めています。

- (1) 世界の様々な動向にリアルタイムで対応しうる、研ぎ澄まされた感受性とレスポンス能力を有する。
- (2) 世界の新たな兆候を、歴史的な視点を踏まえて、人間にとって基本的で普遍的な問いとして提起し、回答する能力を有する。
- (3) こうした問いと回答を、研究者をはじめ、様々な活動をしている市民や専門家などとの共同作業と連携のなかで展開しうる能力を有する。
- (4) 獲得された研究成果を、旧来のメディアだけでなく、多様な媒体（電子媒体、映像媒体）を通して、広く内外に有効に発信する能力を有する。
- (5) 新たに創出される研究のあり方をシステムにまで高めて、次世代に継承する能力を有する。

テーマ中心のプロジェクト研究に大学院学生が積極的に参加することによって研究者養成教育をおこなう先端総合学術研究科は、ディシプリンを基礎とした既存研究科と建設的な緊張関係を保持しつつ、新たな研究領域創出をリードし、大学院学生に新たな選択肢を提供することを目標としています。こうした目標を実現するために、先端総合学術研究科では①「核心としての倫理（コア・エシックス）」を基軸として、②人文科学、社会科学、自然科学の3分野を横断する先端的で総合的なテーマ設定をもった、③オープンな研究者ネットワーク構築と多様な成果獲得を目指すプロジェクト研究を活用した、④時代的要請に応えうる柔軟な構造をそなえた、新たな大学院教育システムを設計しています。加えて、先端総合学術研究科は一貫制大学院であるため、入学後から課程修了までの5年間にわたり、研究科の教育目標・人材育成目標に即して体系的かつ系統的な研究者養成教育を展開しています。そのため、学位取得のためには、上記のような能力を備えていることを求めています。

これらの能力の獲得は、本課程の教育課程で規定されている所定単位の修得、論文基準にもとづく博士学位論文審査および最終試験の合格により、その達成とみなし、学位として博士（学術）を授与します。

《論文評価基準》

博士学位論文は、専攻分野の研究者として優れた研究活動を行い、またはその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識が認められるものでなければなりません。さらに、先端総合学術研究科の博士学位論文として、相応の質・量、内容・水準を備えたものでなければなりません。分野や主題によっても異なりますが、一般的には、以下の項目が評価の対象となります。

- (1) 形式的要件：適切な分量と同時に全国学会の学会誌等に準じた形式であること
- (2) 問題設定と研究テーマの妥当性・独自性
- (3) 研究の意義・適切性
- (4) 論文の体系性・全体構成
- (5) 先行研究の調査・既存研究との関連性
- (6) 理論的分析の明確性・論理的一貫性
- (7) 方法論的妥当性・体系性
- (8) 論述の適切性・厳密性・緻密性
- (9) 論旨・主張の整合性と一貫性
- (10) 表現・表記法の適切さ
- (11) 独創性・先進性

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

先端総合学術研究科先端総合学術専攻は、研究科の人材育成目的達成のため、下記のような教育課程を編成します。

テーマ中心のプロジェクト研究に大学院学生が積極的に参加することによって研究者養成教育をおこなう先端総合学術研究科は、ディシプリンを基礎とした既存研究科と建設的な緊張関係を保持しつつ、新たな研究領域創出をリードし、大学院学生に新たな選択肢を提供していきます。こうした目標を実現するために、先端総合学術研究科では、①「核心としての倫理（コア・エシックス）」を基軸として、②人文科学、社会科学、自然科学の3分野を横断する先端的で総合的なテーマ設定をもった、③オープンな研究者ネットワーク

構築と多様な成果獲得を目指すプロジェクト研究を活用した、④時代的要請に応えうる柔軟な構造をそなえた、新たな大学院教育システムを設計しています。

加えて、先端総合学術研究科は一貫制大学院であるため、入学後から課程修了までの5年間にわたり、上記の教育目標・人材育成目標に即して体系的かつ系統的な研究者養成教育を展開しています。

先端総合学術研究科先端総合学術専攻では、下記の共通のカリキュラムに基づいて教育を展開しています。

大きくは、1年次・2年次での基礎教育と、3年次以降の研究者養成教育に分かれます。基礎教育は、「基礎共通科目」（講読）、「基礎専門科目」（講義）、「サポート科目」（スキル養成）、「プロジェクト予備演習」（演習）の4科目に分かれており、研究者養成教育は「プロジェクト演習」から構成されています。大学院院生は、原則として2年次に「博士予備論文」を提出し、審査に合格した後、3年次から「プロジェクト演習」を履修することになります。また、3年次以降の大学院院生は「プロジェクト演習」の履修に合わせて博士論文執筆の指導を受け、原則として5年次に博士学位論文を提出し審査を受けることになるものとして設定しています。

また、先端総合学術研究科は、①「複数指導・共同指導体制」をとっており、領域横断的な授業科目履修のほか、各院生は指導教員3名のうち、少なくとも1名は他領域の教員とすることが推奨されており、そのような複数指導・共同指導体制のもとでプロジェクトと連動して教育が展開されています。加えて、②「プロジェクト型教育研究システム」として、多様なプロジェクト群と教育研究が一体的に運営されているため、基幹的な教育研究がプロジェクトベースで展開されています。更には、③「体系的な連動型カリキュラム設計」としているため、継続的・発展的にプロジェクトを運営することが可能となっています。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

先端総合学術研究科先端総合学術専攻は、「プロジェクト型大学院」としての教育研究体制のもと、従来のディシプリンの枠組みを超えた複数の分野と果敢に連携し共同する試みを展開するため、大学院における教育を現実の複雑さの水準に見合ったものに引き上げるだけでなく、世界の動向に一步先んじつつ、今後必要とされる新しい人材を、さまざまな分野に向けて輩出することを目的にしています。このように、テーマとなる分野の専門的かつ最新の情報に精通し、さらに必要な情報を収集し総合的に判断する能力、明確な判断の上に立って一定のプロジェクトを設立し、問題解決の方向を人的なネットワークと協力関係を通して切り拓いていく力が本研究科において形成しようとする研究者の能力であり、そのためにも自身のテーマを自らの力で徹底的に思考することができる人材を求めています。

1. 先端総合学術研究科について

1) 研究科概要

立命館大学大学院先端総合学術研究科は、先端的なテーマを総合的に研究し、研究者を養成するために、2003年4月に開設された一貫制博士課程の独立研究科です。

本研究科では、「核心としての倫理」を軸として、「公共」「生命」「共生」「表象」という4つのテーマ領域のもとで、本学の研究所・センターと連携し、学内外の研究者とネットワークを構築して、ディシプリンを横断するプロジェクト研究を進めることとなります。

本研究科は、このプロジェクト研究に、大学院院生を共同研究者として参画させることによって、研究者養成を進めます。カリキュラムはこうした新たな研究者養成の理念に基づいて構成されています。

2) 4つのテーマ領域と「核心としての倫理（コア・エシックス）」

公共 — 21世紀における公共性

国民国家は、公的領域と私的領域の境界を定めながら、公共的なものを独占してきました。これに対して、国境を横断する公共性、地方自治に基礎を置く公共性、市民生活に内在する公共性が対置されてきました。こうして、公共は新たな探求の課題となりました。

公共は、人文学と社会科学を再編する場合の基本的なテーマです。本研究科では、国際関係論・比較文化論、経済学、社会学を通して、21世紀における公共性と公共圏のあり方を探求します。

生命 — 争点としての生命

19世紀における進化論は、社会的にも文化的にもさまざまな争点を作り出しました。20世紀における生命科学と生命技術は、旧来の原理では解決のつかない争点を作り出し、産業化の進展は、自然破壊を進行させ生命多様性を破壊してきました。こうして、新しい生命観、自然観、環境観が探求の課題となっています。

生命は、文系学問と理系学問を再編する場合の基本的なテーマです。本研究科では、哲学・倫理学、科学論・ジェンダー論、生物学・環境論を通して、生命をめぐる理論的・社会的・文化的な展望を探求します。

共生 — 共生の可能性と限界

人類の歴史は、多様な文化の創造と共生の歴史でした。それは多大な犠牲を伴う不完全な共生の実験でもありました。21世紀においては、そうした犠牲を伴わない共生が求められます。グローバル化、文明化作用、多言語・多文化主義、民族主義、レイシズムの動向を踏まえて、差異を対置し差異を尊重する共生を創り上げる必要があります。

共生は、人文学と社会科学を再編する場合の基本的なテーマです。本研究科では、比較文学、文化人類学、政治哲学を通して、共生の実態を調査・観察するとともに、新たな共生のあり方を探求します。

表象 — 表象文化における伝統と技術

20世紀における情報技術の進展は、表象のあり方を根底的に変容させ、日常生活に深い影響を及ぼし、旧来の原理では解決のつかない法的・社会的問題を作り出してきました。同時に、美学・芸

術・芸能における新たな展開の可能性を開いてきました。

表象は、芸術に関わる諸学と技術に関わる諸学を再編する場合の基本的テーマです。本研究科では、美学・芸術学、伝統芸能論、情報工学を通して、表象文化における伝統芸能を現代的情報技術によって再生させ、美術と技術を新たに総合する表象文化を探求します。

核心としての倫理（コア・エシックス）

人文学・社会科学・自然科学の背景には特定の倫理が隠されていました。20世紀後半において、その倫理は顕在化され批判されてきました。21世紀においては、旧来の倫理を組み換え、先端的なテーマの核心に据える必要があります。

本研究科では、この核心としての倫理を、3つの視角から、大学院教育の基礎教育として設定します。第一に、基本的な倫理の問いの立て方を修得する、ベーシック・エシックス。第二に、人権や市民権に関して倫理の問いの立て方を修得する、グローバル・シヴィル・ライツ。第三に、人間と自然の関係に関して倫理の問いの立て方を修得する、サステナビリティです。

2. 履修にあたって

1) カリキュラムの概要

①カリキュラムの設計の特色

カリキュラムは、1年次と2年次での基礎教育と、3年次以降の研究者養成教育に分かれます。

基礎教育は、「基礎共通科目」（講読）、「基礎専門科目」（講義）、「サポート科目」（スキル養成）、「プロジェクト予備演習」（演習）の4科目に分かれます。

研究者養成教育は、「プロジェクト演習」からなっています。

大学院院生は、原則として2年次に博士予備論文を提出し、審査に合格した後、3年次から「プロジェクト演習」を履修します。また、大学院院生は、「プロジェクト演習」の履修に合わせて、博士論文執筆の指導を受け、原則として5年次に博士論文を提出し審査を受けることになります。

②基礎教育

基礎共通科目

「基礎講読演習」と「応用講読演習」の2部門に分かれます。

・基礎講読演習

今後、研究科で学んでいくためのベースとなる科目であり、文献研究や資料調査研究の基礎を習得するための科目で、計3科目が設置されています。

・応用講読演習

4つのテーマ領域ごとに、テキスト研究とフィールド研究、あるいはデザイン研究の2科目、計8科目が設置されています。

基礎専門科目

主題史、各論、特殊講義の3部門、計16科目が設置されています。

③サポート科目

デジタルデザイン、アカデミックライティング、リサーチマネジメントの3部門に分かれ、計10科目が設置されています。

デジタルデザインにおいては、情報機器を用いたエディティングやプレゼンテーションの技能を修得します。アカデミックライティングにおいては英語論文、英語事務文書などの作成技能、日本語文章の分析力と構成力を養成します。リサーチマネジメントにおいては、諸科学に共通な方法、知識マネジメントの技法、プロジェクト運営法、成果達成法、評価方法などを修得します。

④プロジェクト予備演習

4つのテーマ領域ごとに、「プロジェクト予備演習Ⅰ」「プロジェクト予備演習Ⅱ」「プロジェクト予備演習Ⅲ」の3科目、計12科目が設置されています。

「プロジェクト演習Ⅰ」（1年次秋学期）と「プロジェクト予備演習Ⅱ」（2年次春学期）においては、研究会や調査と組み合わせながら、各テーマ領域の基礎的な演習を進めます。「プロジェクト予備演習Ⅲ」（2年次秋学期）においては、研究会や報告会と組み合わせながら、博士予備論文の準備を進めます。

⑤選択科目

他大学の大学院（外国の大学院も含む※）及び本学の他研究科において修得した単位は、15単位を越えない範囲で、修得したものとみなすことができます。

⑥プロジェクト演習

本研究科では、専任教員はプロジェクト担当者としてプロジェクトを計画し運営します。このプロジェクト研究では、学内外の研究者を交え、定期的に研究会などを進行させます。

大学院院生は、博士予備論文の審査に合格して、原則として3年次から、このプロジェクト研究の共同研究者となります。研究会で各自の研究成果を報告し、プロジェクト研究の成果公表に携わります。

なお、大学院院生は、1年次以降、プロジェクト研究に準共同研究者として参加することができます。

プロジェクト研究は、履修上、「プロジェクト演習」として、テーマ領域ごとに計4科目が設置されています。

「プロジェクト演習」、すなわち、プロジェクト研究は、博士論文の準備に寄与するものですが、博士論文執筆の指導は、プロジェクト研究の進行とは別に行なわれます。

2) カリキュラム表

○内は単位数

配当回生	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	5 回生
分野	修士課程相当		博士課程相当		
基礎共通科目	基礎講読演習	基礎講読演習Ⅰ④ 基礎講読演習Ⅱ④ 基礎講読演習Ⅲ④			
	応用講読演習	応用講読演習Ⅰ② 応用講読演習Ⅱ② 応用講読演習Ⅲ② 応用講読演習Ⅳ② 応用講読演習Ⅴ② 応用講読演習Ⅵ② 応用講読演習Ⅶ② 応用講読演習Ⅷ②			
基礎専門科目	主題別講義	公共論史② 公共論Ⅰ② 公共論Ⅱ② 生命論史② 生命論Ⅰ② 生命論Ⅱ② 共生論史② 共生論Ⅰ② 共生論Ⅱ② 表象論史② 表象論Ⅰ② 表象論Ⅱ②			
		特殊講義	特殊講義Ⅰ② 特殊講義Ⅱ② 特殊講義Ⅲ② 特殊講義Ⅳ②		
サポート科目		デジタルデザインⅠ② デジタルデザインⅡ② デジタルデザインⅢ②			
		アカデミックライティングⅠ② アカデミックライティングⅣ②	アカデミックライティングⅡ② アカデミックライティングⅢ②		
		リサーチマネジメントⅠ② リサーチマネジメントⅡ② リサーチマネジメントⅢ②			
演習科目		プロジェクト予備演習Ⅱ②			
	プロジェクト予備演習Ⅰ②	プロジェクト予備演習Ⅲ②	プロジェクト演習⑧		
1 回生入学 修了に必要な単位	「プロジェクト予備演習Ⅲ」を含めて30単位		「プロジェクト演習」の8単位		
3 回生入学 修了に必要な単位	30単位（認定の上限30単位だが、原則24単位を認定する。）		「プロジェクト演習」の8単位		

3) 科目区分、回生ごとの必要単位数および受講登録制限単位数

科目区分ごとの必要単位数の上限はありません。また、受講登録単位数の制限は行っていません。5年一貫制博士課程ですので、最初の2年間で「プロジェクト予備演習Ⅲ」を含めて30単位を修得するように努めてください。30単位を修得すると3回生以上で科目履修をできないという制限はありません。研究や論文執筆に必要な科目があれば計画的に受講をしてください。

4) 科目概要

研究科設置科目の概要については以下WEBで閲覧することができます。

<http://www.r-gscefs.jp/?p=6996>

5) カリキュラムマップ

分野	科目名称	配当 回生	①世界の様々な動向にリアルタイムで対応する、研ぎ澄まされた感受性とレスポンス能力を培う。	②世界の新たな兆候を歴史的な視点を踏まえて、人間にとって基本的に普遍的な問いとして提起し、回答する能力を培う。	③①と②の問いと回答を、研究者をはじめ、様々な活動をしている市民や専門家などとの共同作業と連携のなかで展開しうる能力を培う。	④研究成果を、旧来のメディアだけでなく、多様な媒体（電子媒体、映像媒体）を通して、広く内外に有効に発信する能力を培う。	⑤新たに創出される研究のあり方をシステムにまで高めて、次世代に継承する能力を培う。	
基礎共通科目	基礎講読演習	基礎講読演習Ⅰ	1以上	○				
		基礎講読演習Ⅱ	1以上	○				
		基礎講読演習Ⅲ	1以上	○				
	応用講読演習	応用講読演習Ⅰ	1以上	○	○			
		応用講読演習Ⅱ	1以上	○	○			
		応用講読演習Ⅱ	1以上	○	○			
		応用講読演習Ⅲ	1以上	○	○			
		応用講読演習Ⅳ	1以上	○	○			
		応用講読演習Ⅴ	1以上	○	○			
		応用講読演習Ⅵ	1以上	○	○			
応用講読演習Ⅶ		1以上	○	○				
応用講読演習Ⅷ	1以上	○	○					
基礎専門科目	主題別講義	公共論史	1以上	○	○			
		公共論Ⅰ	1以上	○	○			
		公共論Ⅱ	1以上	○	○			
		生命論史	1以上	○	○			
		生命論Ⅰ	1以上	○	○			
		生命論Ⅱ	1以上	○	○			
		共生論史	1以上	○	○			
		共生論Ⅰ	1以上	○	○			
		共生論Ⅱ	1以上	○	○			
		表象論史	1以上	○	○			
		表象論Ⅰ	1以上	○	○			
	表象論Ⅱ	1以上	○	○	○			
	特殊講義	特殊講義Ⅰ	1以上	○	○	○		
		特殊講義Ⅱ	1以上	○	○	○		
特殊講義Ⅲ		1以上	○	○	○			
特殊講義Ⅳ		1以上	○	○	○			
専門科目	デジタルデザインⅠ	1以上				○		
	デジタルデザインⅡ	1以上				○		
	デジタルデザインⅢ	1以上				○		
	アカデミックライティングⅠ	1以上				○		
	アカデミックライティングⅡ	2以上				○		
	アカデミックライティングⅢ	2以上				○		
	アカデミックライティングⅣ	1以上				○		
	リサーチマネジメントⅠ	1以上			○			
	リサーチマネジメントⅡ	1以上			○			
リサーチマネジメントⅢ	1以上			○				
演習科目	プロジェクト予備演習Ⅰ	1以上	○	○	○	○		
	プロジェクト予備演習Ⅱ	2以上	○	○	○	○		
	プロジェクト予備演習Ⅲ	2以上	○	○	○	○	○	
	プロジェクト演習	3以上	○	○	○	○	○	

6) 2021年度開講科目一覧

開設科目名	クラス	単位数	開講期間	教員名	回生 配当
基礎講読演習Ⅰ	C	4	春semester	小川 さやか、ROTH MARTIN	1以上
基礎講読演習Ⅱ	C	4	秋semester	千葉 雅也、後藤 基行	1以上
応用講読演習Ⅰ	C	2	秋集中	前田 拓也	1以上
応用講読演習Ⅱ	C	2	春semester	立岩 真也	1以上
応用講読演習Ⅲ	C	2	秋semester	後藤 基行	1以上
応用講読演習Ⅳ	C	2	春semester	齊藤 拓、藤原 信行	1以上
応用講読演習Ⅴ	C	2	秋semester	西 成彦	1以上
応用講読演習Ⅵ	C	2	春semester	小川 さやか	1以上
応用講読演習Ⅶ	C	2	春semester	ROTH MARTIN	1以上
応用講読演習Ⅷ	C	2	秋semester	千葉 雅也	1以上
公共論Ⅰ	C	2	春semester	倉本 智明	1以上
公共論Ⅱ	C	2	春semester	後藤 基行	1以上
生命論史	C	2	夏集中	佐々木 香織	1以上
生命論Ⅰ	C	2	春semester	小泉 義之	1以上
生命論Ⅱ	C	2	秋semester	小泉 義之	1以上
共生論史	C	2	春semester	西 成彦	1以上
共生論Ⅰ	C	2	春semester	小川 さやか	1以上
共生論Ⅱ	C	2	秋semester	玉野井 麻利子	1以上
表象論史	C	2	秋semester	ROTH MARTIN	1以上
表象論Ⅰ	C	2	春semester	千葉 雅也	1以上
表象論Ⅱ	C	2	秋semester	竹中 悠美	1以上
特殊講義Ⅰ	C	2	秋semester	立岩 真也	1以上
特殊講義Ⅱ	C	2	春semester	伊勢 俊彦	1以上
特殊講義Ⅲ	C	2	秋集中	THOMAS DEBORAH ANN	1以上
特殊講義Ⅳ	C	2	秋集中	HUST CHRISTOPH	1以上
デジタルデザインⅠ	C	2	秋semester	田邊 健太郎、北村 健太郎	1以上
デジタルデザインⅡ	C	2	春semester	尾鼻 崇	1以上
デジタルデザインⅢ	C	2	秋semester	稲葉 光行	1以上

開設科目名	クラス	単位数	開講期間	教員名	回生 配当
アカデミックライティングⅠ	C	2	春semester	飯田 奈美子	2以上
アカデミックライティングⅢ	C	2	秋semester	川本 佳苗	2以上
リサーチマネジメントⅠ	C	2	夏集中	打越 正行	1以上
リサーチマネジメントⅡ	C	2	秋semester	後藤 基行、福田 知子、 SHIN JUHYUNG	1以上
リサーチマネジメントⅢ	C	2	秋semester	佐藤 量、坂井 めぐみ	1以上
プロジェクト予備演習Ⅰ	CA	2	秋semester	村上 潔、飯田 奈美子、伊田 広行	1
プロジェクト予備演習Ⅰ	CB	2	秋semester	小泉 義之、松原 洋子	1
プロジェクト予備演習Ⅰ	CC	2	秋semester	原 毅彦、土肥 秀行、鶴飼 正樹	1
プロジェクト予備演習Ⅰ	CD	2	秋semester	田邊 健太郎、小出 治都子、高藤 大樹	1
プロジェクト予備演習Ⅱ	CA	2	春semester	藤原 信行、齊藤 拓、吉野 靱	2
プロジェクト予備演習Ⅱ	CB	2	春semester	小泉 義之、松原 洋子	2
プロジェクト予備演習Ⅱ	CC	2	春semester	原 毅彦、土肥 秀行、鶴飼 正樹	2
プロジェクト予備演習Ⅱ	CD	2	春semester	田邊 健太郎、小出 治都子、高藤 大樹	2
プロジェクト予備演習Ⅲ	CA	2	秋semester	立岩 真也、後藤 基行	2以上
プロジェクト予備演習Ⅲ	CB	2	秋semester	小泉 義之、松原 洋子、美馬 達哉	2以上
プロジェクト予備演習Ⅲ	CC	2	秋semester	小川 さやか、西 成彦	2以上
プロジェクト予備演習Ⅲ	CD	2	秋semester	竹中 悠美、千葉 雅也、ROTH MARTIN	2以上
プロジェクト演習	CA	8	通年	立岩 真也、後藤 基行	3以上
プロジェクト演習	CB	8	通年	小泉 義之、松原 洋子、美馬 達哉	3以上
プロジェクト演習	CC	8	通年	小川 さやか、西 成彦、山本 貴光	3以上
プロジェクト演習	CD	8	通年	竹中 悠美、千葉 雅也、ROTH MARTIN	3以上

7) 修了要件

修了に必要な単位は、**プロジェクト演習(8単位)**を含めて**38単位以上**となっています。38単位中、プロジェクト演習を除いた30単位は一部の科目を除き所属テーマ領域に関係なくすべての科目分野から選択・履修できますが、博士予備論文・博士論文の執筆に向けた計画的な履修が必要となります。

学位を取得するためには、原則として1・2年次で30単位を修得し、2年次(第4semester)の終わりには博士予備論文を提出します。3年次からはプロジェクト演習を履修し、課程博士学位の取得に値する国際的水準に達した論文を作成・提出します。博士論文提出の条件として、学術雑誌において論文3篇以上が必要です。

本研究科に原則として5年以上（10セメスター）在学し、所定の単位を修得して、学位論文審査・試験に合格した者に「博士（学術 立命館大学）」の学位が授与されます。

やむを得ず、この標準的な履修スケジュール通りにならない場合は計画的に単位を修得するよう計画してください。

8) 履修指定科目

下記の科目は、履修指定科目であり、所属テーマ領域のクラスを必ず登録する必要があります。また、2005年度より、事前に申請し許可された場合には、所属テーマ領域以外の「プロジェクト予備演習Ⅰ」「プロジェクト予備演習Ⅱ」も登録することができます。ただし、各科目の配当回生以外の者は登録できませんので注意してください。

- ① 1年次 : 「プロジェクト予備演習Ⅰ」（秋学期）
- ② 2年次 : 「プロジェクト予備演習Ⅱ」（春学期）・「プロジェクト予備演習Ⅲ」（秋学期）^{※1}
- ③ 3年次以降 : 「プロジェクト演習」^{※2}

^{※1}「プロジェクト予備演習Ⅲ」の配当回生は2回生以上です。博士予備論文を提出し合格すればそのセメスターで単位認定されます。

^{※2}「プロジェクト演習」は、「プロジェクト予備演習Ⅲ」の単位を修得した場合（博士予備論文を提出し、審査の結果、合格したもの）のみ受講できます。「プロジェクト演習」の単位は、博士論文構想発表会（先端総合学術研究科ではこれを「博士候補者資格認定発表会」と位置づけています）の結果「合格」した場合に単位認定の対象となります。そしてその単位は修了および退学時に与えられます。博士論文構想発表会を行わない、あるいは「不合格」の場合は単位未修得となり、たとえ、標準修業年限（5年）を満たして退学する場合でも単位は与えられません。単位認定の時期は以下です。

- (1) 「博士候補者資格認定発表会」の合格者が30単位を修得した上で、退学する場合には、退学する年度において「プロジェクト演習」の8単位を認定します。早期修了者でなければ通常は標準修業年限（5年）を満たす必要があります。
- (2) 「博士候補者資格認定発表会」の合格者が30単位を修得した上で、学位授与申請書とともに学位論文を提出し、その審査の結果、課程博士（甲号）を授与され、修了した場合に、その年度において「プロジェクト演習」の8単位を認定します。(1)同様、早期修了者でなければ通常は標準修業年限（5年）を満たす必要があります。

なお、「プロジェクト演習」の単位が与えられても、修了に必要な38単位がなければ単位取得満期退学とはなりません。

9) プロジェクト予備演習Ⅰ～Ⅲと博士予備論文

先端総合学術研究科では、1・2年次を「プロジェクト演習」への準備期間と位置付け、「プロジェクト予備演習Ⅰ～Ⅲ」で研究課題の絞込みと博士予備論文の執筆に向け必要な研究指導を受けます。

博士予備論文は、2年次7月（秋学期セメスターで在学3セメスターの場合は2月）に実施される「博士予備論文構想発表会」での構想プレゼンテーションを経て、2年次の1月（2月に発表するケースは6月）に提出をします。提出された博士予備論文および口頭試問の結果に基づき、3年次以降の「プロジェクト演習」への参加資格を判定します。

博士予備論文の作成は「プロジェクト演習」へと繋がる重要なステップであり、他の科目の受講とともにしっかりとした研究計画が必要です。

なお、本研究科は一貫制博士課程ですが、2年以上在学し、所定の単位（30単位）を修得した者が、やむを得ぬ事情によって退学せざるを得ない場合、本人の希望により博士予備論文の審査・試験を経て「修士（学術 立命館大学）」の学位を授与することがあります。

10) 望ましい履修のあり方（参考：履修モデル）

先端総合学術研究科は標準修業年限を5年とする一貫制博士課程であり、カリキュラムの基本として最初の2年間で「プロジェクト演習」への準備期間、後の3年間で博士論文の執筆に向けた研究期間と位置付けています。準備期間である最初の2年間は、博士予備論文の執筆と今後の研究活動に必要なとされる知識や技術の習得に充てられます。そのため「プロジェクト演習」を除く30単位は、ほぼこの期間で履修されることとなります。これをカリキュラムに当てはめた場合、代表的なモデルとして、下記のような履修を想定しています。

- ①基礎共通科目からは基礎講読演習4単位以上を含んで、合計8単位以上を履修。
- ②基礎専門科目からは6単位以上を履修。
- ③サポート科目からは8単位以上を履修。
- ④プロジェクト予備演習からは「プロジェクト予備演習Ⅰ～Ⅲ」（合計6単位）を履修。
- ⑤3年次からは「プロジェクト演習」（必修・8単位）を履修し、必要な研究指導を受ける。

科目分野		履修単位		備考
基礎共通科目	基礎講読演習	4以上	8以上	1科目4単位
	応用講読演習			
基礎専門科目		6以上		
サポート科目		8以上		
プロジェクト予備演習		6		プロジェクト予備演習Ⅰ～Ⅲ
プロジェクト演習（必修）		8		

※上記は、望ましい履修モデルとして提示しているものであり、修了要件ではありません。

11) 早期修了について

立命館大学大学院学則第35条をお読みください。研究科則第11条～14条も合わせてお読み下さい。

12) 3年次転入学の方へ

①修了要件

修了に必要な単位は、必修科目である「プロジェクト演習」（8単位）を含めて38単位以上となっています。3年次転入学者については、「プロジェクト演習」を除いた30単位を上限として、入学前に他大学大学院において修得した単位を認定する場合があります。先端総合学術研究科では3年在籍することを考え、6単位は入学後に履修し修得することを基本としており、24単位を単位認定するこ

ととしています。

学位を取得するためには、「プロジェクト演習」を履修し、課程博士学位の取得に値する国際的水準に達した論文を作成・提出しなければなりません。博士論文提出の条件として学術雑誌において論文3篇以上が必要です。本研究科に3年以上在学し、所定の単位を修得して、学位論文審査・試験に合格した者に「博士（学術 立命館大学）」の学位が授与されます。

②科目の履修について

先端総合学術研究科のカリキュラムについては、この冊子をよく読んで理解してください。「プロジェクト演習」については、必ず所属テーマ領域のクラスを登録してください(受講登録は事務室で行います)。但し、「プロジェクト演習」の単位は修了および退学時に与えられます。Ⅱ-4ページにも説明していますのでお読みください。

1～2回生の配当回生指定である「プロジェクト予備演習」以外の科目については、履修が可能ですので、各自の研究計画に応じて積極的に履修してください。

③入学前修得単位の認定について

新入生オリエンテーション前に事前に（3月下旬）「他大学大学院・他研究科単位認定申請書」をお届けします。単位認定を希望する科目の概要（冊子、コピーあるいは自筆説明文）と一緒に単位認定面接を受けてください。メールで指示をします。

*同一科目名であっても受講登録し、試験に合格すれば単位修得できる科目もあります。オリエンテーションの際にどの科目が該当するのか一覧表をお配りします。

3. 博士予備論文・博士論文・学位授与について

1) 学修と課程博士（甲号）学位取得までの流れ

①論文執筆を中心に／学修概要から

		計画的な科目受講	基礎教育	先行研究／論文執筆	論文執筆／学位申請までの流れ		
1 回生	春学期	2年間で30単位を計画的に修得することが望ましい。 「基礎共通科目、専門科目、サポート科目（計24単位）」 <small>文献読解力・論文執筆力・調査実行能力等を培う基礎共通科目・サポート科目と各専門分野の理論を学ぶ専門科目群から構成される。</small> 「プロジェクト予備演習Ⅰ」 2単位	基礎教育	研究課題の絞り込み 博士予備論文の執筆に向けて必要な研究指導 プロジェクト演習への準備	「研究指導計画書」作成		
	秋学期				八月 コアエシックス草稿検討会		
2 回生	春学期				「プロジェクト予備演習Ⅱ」 2単位	「研究指導計画書」作成	六月 七月 博士予備論文構想発表会論文テーマ提出 博士予備論文構想発表会
	秋学期				「プロジェクト予備演習Ⅲ」 2単位	「修士相当」	八月 コアエシックス草稿検討会 一月 博士予備論文提出／口頭試問／合否判定
3 回生	春学期	履修登録面談 (後期課程転入学者対象)	研究者養成教育	「プロジェクト研究」において研究成果の発表 博士論文提出の条件となる論文執筆 (査読付学術雑誌)3編以上 課程博士学位の取得に値する国際的水準に達した論文作成に向けて必要な研究指導	「研究指導計画書」作成		
	秋学期	「プロジェクト演習」 8単位			八月 コアエシックス草稿検討会		
4 回生	春学期				「博士相当」	「研究指導計画書」作成	八月 コアエシックス草稿検討会
	秋学期					「研究指導計画書」作成	六月 七月 博士論文構想発表会論文テーマ提出 博士論文構想発表会／合否判定
5 回生	春学期					「研究指導計画書」作成	六月 七月 博士論文構想発表会論文テーマ提出 博士論文構想発表会／合否判定 九月 博士学位申請論文提出予定書提出
	秋学期			「研究指導計画書」作成	十月 博士学位申請／受理審査／審査体制 一月 口頭試問／公聴会(一般公開) 二月 大学院学位委員会／授与／修了		

②書類や募集日程などを中心に／日常の広報から

		論文執筆／学位申請までの流れ	簡単な説明 ※詳細は関連資料	関連資料
1 回生	春学期	「研究指導計画書」 主担当へ提出 → 領域および教 授会で共有	1年に一度(5月末締切)必ず主担当教員と面談 を行い教員が作成し双方で署名押印。	1 「研究指導計画書」「研 究指導に関する申し合 わせ」
	秋学期	八月 コア・エシックス草稿検討会 九月 コア・エシックス原稿提出締切／審査へ	外部査読員による査読付き雑誌。 博士学位申請に必要な査読論文3編に入る。 投稿予定の論文の投稿原稿・要旨を10名程度に グルーピングし、専任教員が2名参加する。投稿 予定者により報告。教員および院生による意見や 質問と投稿内容の再検討を議論。 なお、検討会の前の6月にコア・エシックス投稿ガ イダンス・研究倫理専門プログラムが研究科長、 副研究科長、研究指導助手、英語論文スタッフに より実施。	2 「募集／投稿規程／執 筆要項」「投稿原稿検討 会実施日程／グループ 分け等」
2 回生	春学期	「研究指導計画書」 主担当へ提出 → 領域および教 授会で共有		3 「発表予定のみなさん へ／論文テーマ届」
	秋学期	六月七月 博士予備論文構想発表会論文テーマ提出 博士予備論文構想発表会 八月 コア・エシックス草稿検討会 九月 コア・エシックス原稿提出締切／審査へ 一月 博士予備論文提出／口頭試問／合否判定	修士相等の論文にあたるものを予備論文といい、 その論文の構想を発表する機会(合否はない)。 先端研院生は全員出席が原則。 7月の博士予備論文構想発表会を行った者が1 月末に博士予備論文を提出し、主担当が主査、 副担当が副査の3名による論文審査／口頭試問 を行う。合否は教授会に諮る。 合格者は3回生から博士相当となる。 博士予備論文でなく修士論文として提出し審査合 格すれば修士学位授与、退学することがある。	4 「予備論文審査の実施 について」「提出遅延」 「博士予備論文執筆要 項」「退学する場合の修 士号の扱いについて」 「修士相等30単位を未 取得による修士学位申 請および審査の取り扱 いについて」
3 回生	春学期	「研究指導計画書」 主担当へ提出 → 領域および教 授会で共有		
	秋学期	八月 コア・エシックス草稿検討会 九月 コア・エシックス原稿提出締切／審査へ	上記同様のため省略	
4 回生	春学期	「研究指導計画書」 主担当へ提出 → 領域および教 授会で共有		
	秋学期	八月 コア・エシックス草稿検討会 九月 コア・エシックス原稿提出締切／審査へ	上記同様のため省略	
5 回生	春学期	「研究指導計画書」 主担当へ提出 → 領域および教 授会で共有 六月七月 博士論文構想発表会論文テーマ提出 博士論文構想発表会／合否判定 九月 博士学位申請論文提出予定書提出	八月 コア・エシックス草稿検討会 九月 コア・エシックス原稿提出締切／審査へ	3 「発表予定のみなさん へ／論文テーマ届」 5 課程博士の学位授 与に関する申し合わせ」 「授与に関する運用内 規」「学位論文の「論文 3編について」「博士論 文に関連する注意点」 「プロジェクト演習の単 位授与について」「学位 論文の提出要領」
	秋学期	十月 博士学位申請／受理審査／審査体制 十一月 口頭試問／公聴会／教授会学位授与審査 十二月 大学院学位委員会／授与／修了	上記同様のため省略 受理審査委員会(2名)により査読論文3編など申 請要件があるかどうか審査。審査結果を研究科長 に報告、教授会審議。受理承認されれば論文審 査体制(主査、副査(学外1名)3名の4名(場合 により5名)による審査を開始。	

2) 研究指導計画書について (manaba+R を参照のこと)

博士課程における研究指導については、大学院設置基準ならびに大学院学則に既定されている通り、学生に対してあらかじめその内容、計画等を明示することが必要なことから、研究指導計画書の取り扱いを以下の通り定めています。

(1) 様式

別紙のとおり

(2) 作成および保管

- ①指導教員は、原則として、年度初め(4月入学生は5月末、9月入学生および秋学期 Semester 復学者は10月末を目処とする)に学生と面談を行い、先端総合学術研究科が指定する様式に従って研究指導計画書を作成する。
- ②一貫制博士課程の全ての年次において、研究指導計画書は毎年度作成する。
- ③指導教員は、研究指導計画書を研究科長へ提出する。提出された研究指導計画書は教授会と当該学生が共有する。
- ④研究指導計画書は当該学生の修了まで衣笠独立研究科事務室にて保管し、随時、閲覧可能とする。

研究指導計画書 (※は記載不要)

立命館大学大学院先端総合学術研究科長殿		
今後の研究計画および研究指導計画を報告します。		
年 月 日	先端総合学術研究科 一貫制博士課程 学生証番号	回生
氏 名 (自署)		Ⓔ
課程博士論文テーマ： (注「論題変更届」を兼ねる)		
課程博士論文提出予定：	年 月 日	
指導教員氏名 主担当：		
副担当：		
副担当：		
(注「指導教員変更届」を兼ねる)		
【今年度の研究計画】		
※指導教員の研究指導計画		
年 月 日 指導教員名：(自署)		Ⓔ
※受 付	※研究科委員会・研究科教授会・学院教授会	※備 考
	年 月 日 (可 ・ 否)	論文以外の修了要件 (充足 ・ 不足)

裏面 (※1回生・2回生は記入不要)

氏名 ()

[これまでの主な研究業績]				
(注：査読付き論文にはアスタリスク(*)を付け、最新のものから順に記すこと)				
年	月	単・共	論文名	発表・刊行雑誌等
[博士論文執筆状況]				
[博士論文執筆計画]				

3) 構想発表会について (manaba+R を参照のこと)

【博士予備論文構想発表会】

手続・対象者

在学 1.5 年目の講義期間が終了する直前（1 回生 4 月入学の場合は 7 月実施）に、博士予備論文（修士論文に相当する）の執筆構想、研究の成果を研究科全院生参加の下で発表を行うことを義務づけています。発表会開催予定日のおよそ 2 ヶ月前に「博士予備論文構想発表会論文テーマ届」を事務室に提出してください。日程の詳細は別途発表します。

博士予備論文構想発表会を行わなければ在学 2.0 年目（1 回生 4 月入学の場合は、2 回生の 1 月末）に博士予備論文を提出できません。

実施方法等

- ①発表時間は 15 分、質疑応答は 20 分。
- ②発表は、論文のテーゼ・論旨に絞って、簡潔かつ明確に述べること。
- ③発表時のレジюме（A 3 判片面印刷 1 枚）を、必ず予め **40 部用意**して持参すること。また、レジюмеのデジタルデータ（.docx あるいは PDF）をメールに添付して提出してください。
送り先は doku-ken@st.ritsumei.ac.jp
- ④レジюмеには以下の事項を簡潔に記載すること。
 - ・論文の主旨
 - ・論文の章立て
 - ・研究史上の意義
 - ・主要参考文献
 - ・必要なら図表
- ⑤発表用原稿またはメモはレジюмеとは別に各人において用意すること。
- ⑥発表用に使用する機器類については事前に事務室に申し出ること。

合否・評価

博士予備論文構想発表会では評価は行われません。博士予備論文を在学 2.0 年目に提出されてから、論文審査体制、口頭試問（主担当 1 名、副担当 2 名に更に 2 名の試問委員、都合 5 名による）を経て、教授会に合否の案について報告されます。教授会で合格の判定がされれば、次の在学から博士相当となり「プロジェクト演習」の受講へと階段へ進みます。そして、学期末に「プロジェクト予備演習Ⅲ」の成績、単位が付与されます。

なお、発表会を行い、博士予備論文を 1 年間提出できない場合は、改めて博士予備論文構想発表会を行わなければなりません。

評価基準

博士予備論文の執筆が十分に可能であることを以下の基準で判断する。

- 1) 研究史に自らの研究を適切に位置づけ、その意義を明確にしている。
- 2) 博士予備論文の構成が論理的であり、適切な質・分量となっている。
- 3) 博士予備論文の執筆に必要な能力（調査能力、文献読解力、論述能力）を備えている。
- 4) 博士予備論文の執筆時点までに適切な文献やデータをそろえることができる。
- 5) 博士論文へと発展可能性を持つことが期待できる主題・内容となっている。

学位授与

修士学位は在学中には授与されません。博士学位授与に向け奮闘してください。なお、修士学位授与、退学することはできます。項目 11 で後述します。そちらをお読みください。

【博士論文構想発表会】

手続・対象者

在学 4.5 年目の講義期間が終了する直後に、博士論文（博士学位申請論文に相当する）の執筆構想、研究の成果を研究科全院生参加の下で発表を行うことを義務づけています。発表会開催予定日のおよそ 2 ヶ月前に「博士論文構想発表会論文テーマ届」を事務室に提出してください。日程の詳細は別途発表します。

これまでに博士論文構想発表会を行ったが「不合格」になった者、一度「合格」したが、その後、テーマを変更した者も対象になります。

実施方法等

- ①発表時間は 30 分、質疑応答は 20 分。
- ②～⑤は前述した博士予備論文構想発表会と同じです。

合否・評価

発表会実施後の直近の教授会において主担当および副担当から合否の提案がなされ、教授会の議を経ることになります。合格の判定があれば退学時および修了時に「プロジェクト演習」の成績、単位が付与されます。

評価基準

博士論文の執筆が十分に可能であり、**Ph.D Candidate** として十分な能力を備えていることを、以下の基準で判断する。

- 1) 研究史上の意義が明確であり、問題設定と研究テーマに独創性・先進性がある。
- 2) 博士論文の構成が論理的であり、適切な質・分量となっている。
- 3) 理論的な分析が明確であり、論理的な一貫性がある。
- 4) 主張に一貫性があり、論証に足る十分なデータがある。
- 5) 論述が適切であり、緻密である。
- 6) **Ph.D Candidate** を名乗るにふさわしい知識と読解・論述技能がある。

■博士論文構想発表会を「博士候補者資格認定発表会」と位置づけます。発表者は構想発表会を行う学期内に、30 単位取得見込みであることが望ましい。合否はそのセメスターの成績発表の時期にあわせて、発表者に個別に伝達します。

■対外的に「Ph. D. Candidate」を名乗る場合には「博士候補者資格認定発表会」の合格者であることとします。

4) 博士予備論文の提出について (manaba+R を参照のこと)

博士予備論文構想発表会を行った者は次の要領で博士予備論文を提出してください。

1. 使用言語
日本語または英語
2. 字数
日本語論文の場合、40,000 字程度（註を含む、文献表・図表は別）。
英語論文の場合、20,000 語 (words) 程度。
3. 大きさ
A4 判ヨコ書き。ワード、あるいは PDF 等のデータ提出。
4. 口頭試問
口頭試問の日程、詳細は教授会の決定を受けて、後日連絡します。
5. 提出にあたって
 - (1) 提出物
博士予備論文 (PDF、あるいはワードデータで提出)
博士予備論文執筆要項 (2021 年度改定) に提示している方法で提出すること
 - (2) 提出期限
提出期限の日程、詳細は教授会の決定を受けて、後日連絡します。
6. その他
 - ① ワード・ソフトを使用すること。
 - ② 論文には目次を付けること。
 - ③ 論文には頁数を記すこと。
 - ④ 文献表・註記等に関しては、学術論文の慣行に従うこと。

本研究科は一貫制博士課程ですが、修士で退学する場合は、提出する論文を修士論文として審査します。この場合は、論文提出時に「修士学位授与申請書」(manaba+R にて配付)を提出して下さい。

5) 修士学位の授与について

2 回生終了時または 2 回生以降博士号取得せずに退学する場合の修士号の扱いは次の通りです。

【ケース 1】 2 年次終了時に退学する場合

- (1) 該当する院生は、指導教員と相談のうえ、2 回生 11 月末までに、修士号学位授与の申請を予定している旨を、事務室に申し出るとともに「退学届」を提出する。
- (2) 1 月末日に博士予備論文提出の書類に加えて、修士学位授与申請書を提出する。
- (3) 研究科教授会は審査委員会を設けて、論文審査を行ない、2 月中旬に口頭試問を行なう。
- (4) 審査委員会は、研究科委員会に審査の結果を報告する。研究科教授会における学位授与の議決は、構成員の 2/3 以上の出席、その 2/3 以上の賛成を得るものとする。修士学位授与の決定は、研究科教授会の議を経て、大学院学位委員会で承認される。

【ケース 2】 2 年次終了時に博士予備論文が「合」となった後、3 年次以降で退学する場合

- (1) 該当する院生は、指導教員と相談のうえ、当該年度の春学期 Semester 最終日付で退学する場合には 5 月末までに、秋学期 Semester 最終日付で退学する場合には 11 月末までに、修士学位授与の申請を

予定している旨を、事務室に申し出るとともに「退学届」を提出する。

(2)原則として、博士予備論文として提出したものを修士論文に読替えて審査を行う。博士予備論文提出時と同様の書類に加えて、修士学位授与申請書を提出する。但し、研究科教授会が必要と認める場合には、2年次終了時に提出した博士予備論文にそれ以降の研究成果をもとに加筆修正して提出することができる。

(3)研究科教授会は審査委員会を設けて、論文審査を行ない、7月もしくは2月中旬に口頭試問を行なう。

(4)審査委員会は、研究科委員会に審査の結果を報告する。研究科教授会における学位授与の議決は、構成員の2/3以上の出席、その2/3以上の賛成を得るものとする。修士学位授与の決定は、研究科教授会の議を経て、学位授与を議決する。

【ケース3】2年次終了後、博士予備論文が「否」あるいは未提出のまま、3年次以降で退学する場合

博士予備論文が否であった者は、修士学位授与申請書とともに、博士予備論文を再度提出し、修士論文に読替えて審査を受けることができます。また、未提出であった者についても修士学位授与申請書とともに、博士予備論文を提出し、修士論文に読替えて審査を受けることができます。その際の手続きはケース2の(1)(3)(4)と同様とします。

なお、博士予備論文構想発表会の発表が有効である1年を超えた場合、修士学位授与申請はできません。

(注)「立命館大学学位規程」第3章 修士

第14条 修士論文の審査及び試験はその在学期間中に終了するものとする。

したがって、例えば、2年次に博士予備論文が「合」となり3年次春学期に学費を納入しないまま春学期未納除籍となる場合には、修士号は与えられない。

6) 博士学位(甲号)の授与について (manaba+Rを参照のこと)

論文の提出

manaba+R に必要な提出物を説明、書式を提示していますので御覧ください。

論文の受理

先端総合学術研究科教授会は、論文の受理の可否について審査を行う。

審査教授会は、構成員の1/2以上の出席を要し、その議決には出席者総数の1/2以上を要するものとする。

論文の審査

- (1) 受理を可とされた論文について、教授会は3名以上の審査委員を選出する。うち、1名を主査とする。
- (2) 審査委員には本研究科に所属する主査に加えて、本研究科以外の本学および他大学等の教員等を含むことができる。
- (3) 学位請求論文は、その審査が終了するまでの期間、縦覧に供することを原則とする。
- (4) 学位請求論文の審査過程における学位申請者の学力の確認にかかわる試験は、学位請求論文を中心

として、これに関連ある科目について、試問を行う。その実施方法は審査委員会において決定する。

(5) 主査は、論文審査および学力の確認終了後、公聴会の開催を研究科長に要請する。

(6) 主査は、論文審査および学力の確認ならびに公聴会が終了したときに、次に掲げる事項を教授会に報告する。

①論文審査の要旨および審査委員

②論文審査および学力確認の結果

③申請者の在学期間および修了要件に関わる事項

(7) 論文審査教授会は、前項の報告に基づき、投票により、論文審査および学力確認の判定を行う。教授会は、構成員の2/3以上の出席を要し、出席者の2/3以上で議決することを要する。

(8) 研究科長は、教授会での論文審査および学力確認の判定に合格した者について、その旨を大学長に報告する。

7) 博士学位論文の提出要領 (manaba+Rを参照のこと)

「課程博士」審査対象となる要件

「課程博士」学位授与の申請にあたっては、以下の要件を満たしていなければならない。

(1) 修了に必要な単位数、38単位を修得見込みであること。

「プロジェクト演習」の単位修得のためには当該科目を1年以上履修していること。

(2) 主題に関わる学術論文について、次の要件を満たしていること。

a) 申請の時点で、学術雑誌*において論文3篇以上**が受理(掲載決定)されていること。

* 原則的にレフェリー付きの「学会雑誌」や『コア・エッセックス』をさす。その他の雑誌、刊行物所収の論文を「3篇」のうちに加える場合には、当該論文が、質・量ともに、上記、「学術雑誌」掲載論文に準拠することを確認するため、受理審査委員会の権限において、指導教員に確認文書の提出を求めることとなっている。

** 「論文目録」参考論文の欄に論文題目・掲載雑誌名を記載し、抜き刷りまたは、コピーを2部ずつ添付すること。

b) 刊行予定については、掲載決定証明を添付すること。

(3) 原則として学位授与申請を行う前 Semester までに、「博士論文構想発表会」を行っていること。「博士論文構想発表会」は原則として7月、2月の「博士予備論文構想発表会」開催時に行うこととする。

可否は9月、3月の成績発表の時期にあわせて、発表者に個別に伝達する。

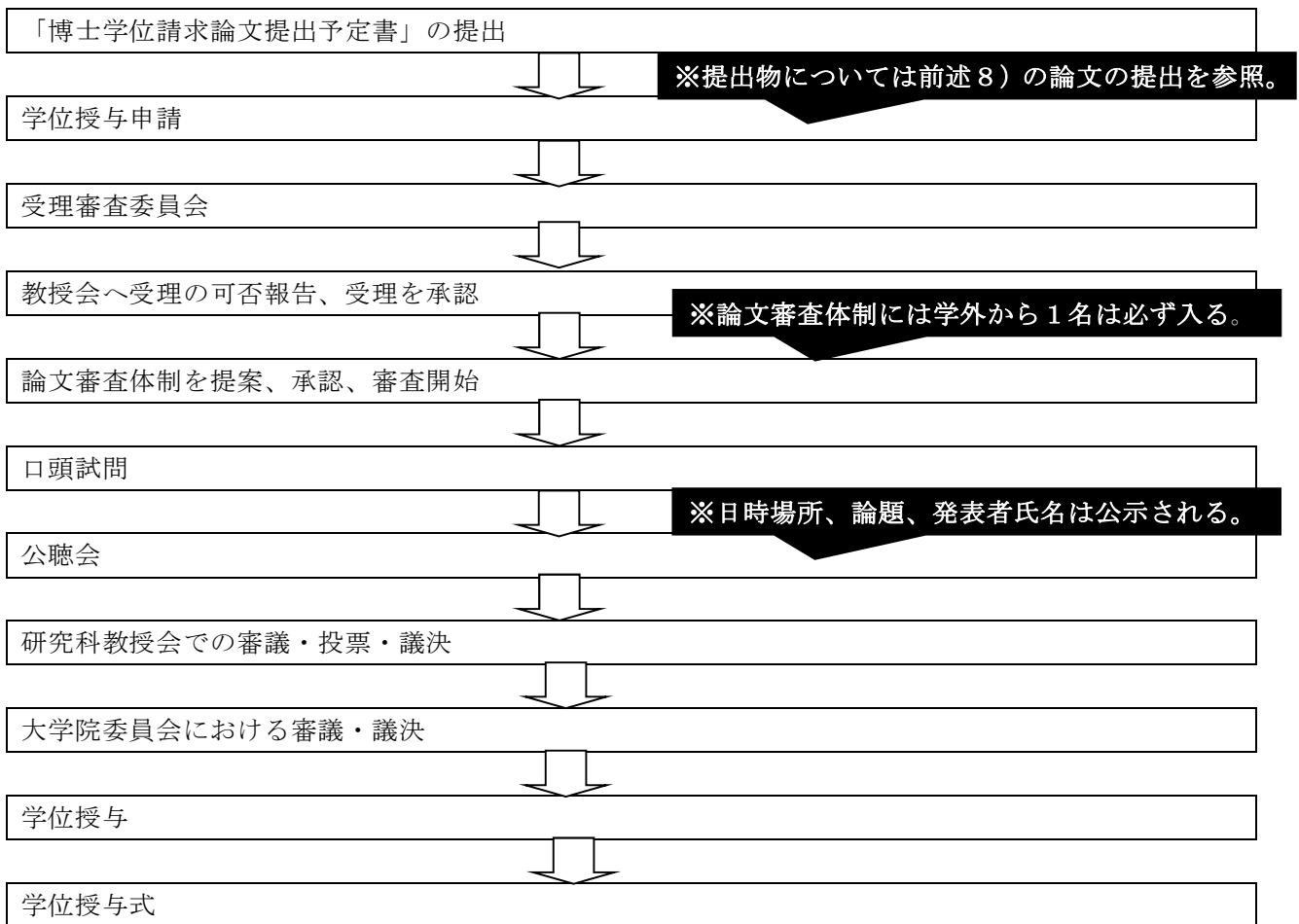
(4) 学位論文は、国際的水準に達していること。

学位授与に関する日程

博士学位請求論文提出締切は4月と10月を基本とするが、学期末の9月、3月でも可能である。 学期末の場合は指導教員(主担当)とよく相談し、指導教員から教授会での審議事項とするが、「博士学位請求論文提出予定書」を決められた日程に従って事務室に提出しなければならない。

申請者は「博士学位請求論文提出予定書」を提出締切の3週間前までに提出することを原則としている。

審査の流れ



8) 博士学位論文の全文インターネット公表について (manaba+Rを参照のこと)

学位規則（文部科学省令）が一部改正され、2013年4月以降に博士の学位（課程博士・論文博士）を授与された者は、博士論文全文についてインターネットを利用して公表することが義務づけられました。本学において博士学位を授与された方は、当該博士論文全文を、学位を授与された日から1年以内に本学の「立命館学術成果リポジトリ（R-Cube）」を利用してインターネット公表する必要があります。著作権保護、個人情報保護等の理由により、やむを得ない事由があると大学が承認した場合は、博士論文全文に代えて、その内容を要約したもの（以下、論文内容の要約）を公表していただくことになります。

9) 研究倫理について

大学院生が学問的良心に基づき自由に研究活動を行うためには、研究を進めるにあたって知っておかなければならない行動規範、成果の発表方法などの研究倫理を心得ておく必要があります。大学院生が意図しない部分で倫理的な問題を起こさないためにも、研究倫理の基礎知識、研究倫理を学ぶ必要性・意義などを学び、研究倫理は大学院生が主体的に考えるべき問題であるということを認識することは非常に重要なことです。

これまで本学では、指導教員による研究倫理指導だけではなく、正課科目、課外セミナーによる研究倫

理教育の実施や、新入生オリエンテーション等においても研究不正（剽窃、盗作など）に関わる注意喚起等も行ってきました。この間の取組みも踏まえつつ、全大学院生を対象とした研究倫理教育を実施いたします。

研究倫理教育の実施内容については、大学院キャリアパス推進室内にある研究倫理教育のウェブサイト参照してください。研究倫理教育は研究活動を進めていくうえで非常に重要であるため、積極的に受講してください。

【研究倫理教育のホームページ】

manaba+R の「先端総合学術研究科院生のページ」→「トップページ」→「履修・受講登録」→「研究倫理教育」をクリック

4. FAQ

よくある質問と回答をまとめてみました。

※なお、取り扱いは変わる場合がありますので、その際は別途お知らせ致します。

Q 1 Ph. D. Candidate について教えてください。

先端総合学術研究科では博士論文構想発表会を「博士候補者資格認定発表会」と位置づけています。対外的に「Ph. D. Candidate」を名乗る場合にはこの「博士候補者資格認定発表会」の合格者であることとしています。なお、その際、構想発表会を行う Semester のうちに、30 単位修得見込みであることが望まれます。

Q 2 博士論文構想発表会（博士候補者資格認定発表会）に合格したものの、在学中に論文を提出できずに退学した場合、「プロジェクト演習」の単位はどうなるのでしょうか。

在学期間中に論文を完成させることができず、退学することはあります。この時、修士相等の 30 単位を修得し、博士論文構想発表会を行い合格している場合、「プロジェクト演習」の 8 単位は、退学時に認定します。よって、一貫制博士課程の 38 単位を修得して満期退学になります。但し、退学は Semester 末での退学であること、休学中の退学でないことが必要です。在学している Semester の学費が未納での退学、Semester 途中での退学、休学中での退学の場合は単位認定されませんので、満期退学できません。

Q 3 構想発表会後、論文を提出できない場合はどうすればよいのでしょうか。

(1) 博士予備論文構想発表会

博士予備論文構想発表会を行った直後の博士予備論文提出機会に論文を提出できない場合、次のように取り扱っています。

- ① 博士予備論文構想発表会後、1 年以内に博士予備論文を提出しなければなりません。提出できない場合は、再度発表が必要です。
- ② 発表直後の提出機会以外の提出は例外的な措置と位置づけます。提出遅延にならないよう、努力すること。
- ③ 博士予備論文を通常通りに提出できないと指導教員が判断した院生は「博士予備論文提出遅延届」（指導教員の所見が必要）を 2 年次の冬期休暇明け授業日までに事務室へ提出する。次回開催の博士予備論文構想発表会前に博士予備論文を提出（6 月末あるいは 1 月末）し、審査を受けることを前提とする。
- ④ その Semester で「プロジェクト予備演習Ⅲ」の単位を認定されません。よって、次の Semester から「プロジェクト演習」を履修することもできません。

- ⑤ 延長したにもかかわらず論文を提出できなかった場合は、博士予備論文構想発表会で再度報告をし、発表直後の提出機会に博士予備論文を提出すること。
- ⑥ 博士予備論文を提出せず、かつ、「博士予備論文提出遅延届」も提出しなかった場合は、次回博士予備論文構想発表会で再度報告し、発表直後の提出機会に博士予備論文を提出すること。
- ※ 博士予備論文を提出し「不合格」になったものは提出遅延の手続きを取った者と同様の扱いとすることになりました。この場合は「博士予備論文提出遅延届」の提出は不要です。「(2010年2月14日、第18回先端総合学術研究科教授会)

(2) 博士論文構想発表会

- ① 博士論文構想発表会を行った結果「不合格」となった者は次の発表会に向け努力すること。
- ② 博士論文構想発表会を行った結果「合格」となったが、発表直後の博士論文提出機会に論文を提出できない場合、次の提出機会に向け努力すること。
- ③ 上記②の場合、再度の博士論文構想発表会が必要であるか、必要でないかは指導教員を通して、先端総合学術研究科教授会にて審議・決定することとしています。指導教員と相談してください。
- ④ 論文テーマが変わる場合は、再度、博士論文構想発表会を行う必要があります。
- ⑤ 博士論文構想発表会は通常4.5年目の在学中に行い5年目に博士論文を提出します。提出ができず引き続き在学する場合は次の提出機会に向け努力すること。

Q4 やむを得ず退学する場合の修士学位の扱いはどうなるのでしょうか。

先端総合学術研究科では2年次修了時または3年次以降、博士号取得をせずに退学する場合の修士学位の扱いについて、次のように扱うこととしています。

※ここで言う2年次は在学年数2年（セメスターの数では4つ）を意味します。休学は在学年数に数えません。※下記説明は7月の博士予備論文構想発表会を行う者を前提に記しています。

(1) 2年次修了時に退学する場合

該当する院生は、指導教員と相談のうえ、2年次11月末までに、博士予備論文を修士論文として提出し、修士号学位授与の申請を予定している旨を、事務室に申し出るとともに「退学届」を提出してください。

1月末日に博士予備論文提出の書類に加えて、修士学位授与申請書を提出してください。2月中旬に口頭試問を行います。修士学位授与の決定は、研究科教授会の議を経て、大学院学位委員会で承認されます。

(2) 2年次修了時に博士予備論文が「合」となった後、3年次以降で退学する場合

該当する院生は、指導教員と相談のうえ、当該年度の春学期セメスター最終日付で退学する場合には5月末までに、秋学期セメスター最終日付で退学する場合には11月末までに、修士論文学位授与の申請を予定している旨を、事務室に申し出るとともに「退学届」を提出してください。

原則として、博士予備論文として提出したものを修士論文に読替えて審査を行います。修士論文として再提出してください。博士予備論文提出時と同様の書類に加えて、修士学位授与申請書を提出してください。但し、研究科教授会が必要と認める場合には、2年次修了時に提出した博士予備論文にそれ以降の研究成果をもとに加筆修正して提出することができます。

研究科教授会は審査委員会を設けて、論文審査を行ない、7月～8月もしくは2月中旬に口頭試問を行ないません。但し、やむを得ない事情がある場合で、研究科教授会が認めるときには口頭試問を免除することができます。修士学位授与の決定は、研究科教授会の議を経て、大学院学位委員会で承認されます。

(3) 2年次修了後、博士予備論文が「否」あるいは未提出のまま、3年次以降で退学する場合

博士予備論文が否であった者は、修士学位授与申請書とともに、博士予備論文を再度提出し、修士論文に読替えて審査を受けることができます。また、未提出であった者についても修士学位授与申請書とともに、博士予備論文を提出し、修士論文に読替えて審査を受けることができます。その際の手続きは上記(2)と同様です。

なお、博士予備論文構想発表会の発表が有効である1年を超えた場合、修士学位授与申請はできません。再度、博士予備論文構想発表会を行わなければなりません。

Q 5 2年次に博士予備論文が「合」となり3年次春学期に学費を納入しないまま春学期未納除籍となった場合の修士号はどうなるのでしょうか。

修士論文の審査及び試験はその在学期間中に行うもので、2年次に博士予備論文が「合」となり3年次春学期以降に学費を納入しないまま未納除籍となる場合には、修士号は与えられません。

※修士号で修了したい場合は、在学中に、前述Q4に従い手続きを経て、論文審査を受けなければなりません。除籍後、提出した博士予備論文を修士論文として認めることはありません。

Q 6 5回生を終えて修了できない場合の学費額はいくらになるのでしょうか。

学費額はWEBから閲覧できます。

立命館大学トップページ⇒大学紹介⇒基礎データ⇒学費

こちらで一貫制博士課程の先端総合学術研究科の学費をまず確認してください。ただし、これ以外に院生協議会費(4,000円)が別途必要です。

この学費の表の下に、「標準修業年限を超えた者の学費は上記の半額となります。上記にかかわらず、標準修業年限を超え、大学院学則に定める各研究科の修了要件のうち、博士論文以外の要件を満たした者の学費は200,000円(1セメスターあたり100,000円)となります。」という注意書きが重要です。

回生は5回生であっても、博士論文構想発表会を行い、「合」となっている者とそうでない者によって学費額が変わります。(1)「合」となっている者の授業料は200,000円となります。(2)「合」になっていない者は250,000円です。また、非常に重要なのですが、(3)回生が5回生でも半期の休学などを行っている場合、在学期間が4.5年のケースがあります。その場合は、博士論文構想発表会が「合」であっても、年額500,000円ですので、春学期分(0.5年分)は250,000円必要となり、春学期を終えたところで在学期間が5.0年になりますので、秋学期は200,000円の半額100,000円となります。(4)在学期間が4.5年で博士論文構想発表会が「合」でない者も同様に年額500,000円ですので、春学期分(0.5年分)は250,000円必要となり、春学期を終えたところで在学期間が5.0年となり、秋学期は学費が半額になりますので、250,000円の1/2の125,000円となります。(5)しかし、春学期の博士論文構想発表会で「合」になりますと、秋学期学費は100,000円となります。

Q 7 5回生を終えて修了できないので6回生に在学したい場合はどうするのでしょうか。必要な手続きを教えてください。また、何年間大学に在学できるのでしょうか。

何年在学できるかは回生で考えると間違えます。在学しているセメスターを数える必要があります。標準修業年限5年というのは10セメスターといことです。休学は数えません。セメスターが11個目になる時、11個目に在学する場合に何か別途手続は必要ありません。財務経理課から学費請求がなされますので、それに従ってください。

在学できる年限については、入学した年度や入学(再入学)した回生などにより異なりますので注意が必要です。2009年度以前に入学した方の最長在学年数(休学期間は数えない)は8年、2010年度以降に入学、再入学、3年次転入学した方の最長在学年数(休学期間は数えない)は10年です。一度

退学し、再入学した場合でもこの最長在学年数は変わりません。

Q 8 再入学したのですがあと何年在学できるのか、休学できるのか教えてください。

再入学した方の最長在学年数はQ 7でも書いておりますが、最長在学年数が関係します。2009年度以前の入学者は8年（16セメスター）、2010年度以降の入学者（3年次転入学者を含む）は10年（20セメスター）です。再入学前の在学年数（セメスター）を引き算した残りが在学できる上限となります。

休学は2010年度以降の入学者（3年次転入学者を含む）は通算5年（10セメスター）の上限がありますが、2009年度以前の入学者には通算の上限はありません。しかし、再入学した場合、再入学前の休学の記録はリセットされ、入学年度に関係なく通算5年が適用されます。

文章で書くと非常に分かり辛い制度なので、図解しています。以下を参照してください。この図解は再入学者に限らず全院生について説明しています。

Q 9 修了の日付を教えてください。

大学院博士課程前期課程、修士課程または専門職学位課程の修了の日は、「修士学位授与に関する申し合わせ」により、春分の日、ただし、春学期に修了要件を満たした者の修了の日は、秋分の日とすることが決められています。

大学院博士課程後期課程または一貫制博士課程の修了の日は、「課程博士の学位授与に関する申し合わせ」により、3月31日、ただし、春学期に修了要件を満たした者の修了の日は9月25日とすることが決められています。学修要覧（全研究科共通編）を参照してください。

※先端研修士修了は他の研究科の修士課程と同様ですが、学内的には修士学位授与学期末退学という扱いです。

Q 10 博士予備論文、博士論文の論題や指導教員、領域を変更したい場合の手続を教えてください。

前者は「論題変更届」、後者は「所属テーマ領域・指導教員 変更願」を提出してください。論題の変更は構想発表会に関わるものですから変更が生じた場合速やかに手続を行ってください。指導教員（主担当・副担当）の変更は博士予備論文にあっては口頭試問の委員（博士論文の審査体制は教授会が決定します。審査を受ける者が指名することはできません）となりますので、こちらも速やかに手続を行ってください。なお、所属領域、指導教員についてはWEBで公開していますので、確認してください。

また、学期始めに提出を求めている「研究指導計画書」は論題、領域、指導教員の変更手続を含みますので、上記の手続に代えることができます。

Q 11 立命館大学の奨学金を給付されていますが、休学した場合はどうなるのでしょうか。

一貫制博士課程の「1年次対象成績優秀者奨学金」、「2年次対象成績優秀者奨学金」を受けている方と3年次以上の優秀な研究業績を有する者の授業料を援助することにより、後期課程における研究活動を奨励することを目的とする「博士課程後期課程研究奨励奨学金」を受けている方とは違いがあります。1年次、2年次の受給者は休学時に一次給付を停止されますが、復学時に教授会が許可すれば給付が再開されます。3年次から5年次に給付される奨学金は研究奨励であるため休学した時点で給付がストップされ、復学後に給付されません。

Q 12 満期退学とは何でしょうか。

標準修業年限5年を終えて最大で在学できる年限の間に修士相当の30単位、後期相当の8単位（博士論文公表会を行い、合格）を修得し、在学中に学期末で退学した場合に「単位取得満期退学」と言います。この単位取得満期退学は休学中に退学を申し出ても後期相当の8単位を休学中に与えることはできません。

るので、単位取得満期退学にはなりませんので注意が必要です。

Q13 遡及とは何でしょうか。

遡及とは3月末（場合によっては9月25日）に博士論文（博士学位申請）を提出して単位取得満期退学した場合に、4月以降の非在籍者に博士学位論文審査がなされ、その結果、大学院学位委員会で授与が決定すると、博士学位記が3月末に遡って授与されることを差しています。この制度の適用者は2009年度以前に1回生に入学した者および2011年度以前に3年次転入学した者に適用されます。これ以降の年度に入学した者には適用されません。学修要覧（全研究科共通編）をお読みください。

注）4月に博士学位申請した場合は遡及になりません。すでに次の年度に在学していますので、9月25日修了となります。

Q14 休学の通算年数は退学後に再入学した場合、在学時の休学年数はどうなりますか。

再入学した場合に退学するまでの在籍期間において休学をした年数は再入学後の休学の年数と合算しません。再入学した時点で過去の休学年数（セメスター数）はゼロになりますので、休学の通算年数は5年（セメスター数で言うと10個）です。

Q15 修了後に図書館などの学内施設を利用したいのですが、どうすればよろしいでしょうか。

修了後に図書館や究論館を利用するには通常は研究生に出願するのが良いでしょう。ただ、新学籍制度の方と旧学籍制度の方では少し出願で注意が必要です。新旧の違いの中でも特に注意が必要なのは「遡及」です。新学籍制度の適用者は「遡及」がありません。3月、9月で博士学位申請し、博士学位申請論文を提出された方は次の学期は特別在学料（25,000円）を納めて在学しなければいけません。ですので、研究生に出願するのは論文の仕上げに没頭している時期ではないので大丈夫でしょう。反対に旧学籍制度の適用を受ける方は注意が必要です。研究生の出願時期が3月、9月の第1週目に締切になるのが恒例です。論文完成に向けての最終段階になっている頃なので他のことに考えが及ばないことでしょう。論文を仕上げ提出してホッとした頃、学期末で満期退学になることに気づき、研究生の手続を失念していることに気が付くでしょう。満期退学後にすぐに研究生になり学内施設を利用したいと考えている方は研究生の出願時期、手続のことを忘れないでください。

究論館は利用できませんが、校友あるいは一般利用者（有料）として図書館を利用することはできます。ライブラリーカードの申請については図書館のWEBを見るか、カウンターで相談してください。

※研究生は累積3年まで出願できます。詳細は出願手続要項（出願資格は全研究科共通なので立命のWEBで[研究生]で検索すればどこかの研究科のものにヒットします）を読んでおくようにしましょう。

5. 関連資料（研究科則・内規・要領など）

○立命館大学大学院先端総合学術研究科研究科則

2012年2月17日 規程第955号

（趣旨）

第1条 この研究科則は立命館大学大学院学則（以下「大学院学則」という）第49条の2にもとづき、先端総合学術研究科の教育課程、授業科目、履修および修了に関する事項について定める。

（研究科、専攻および課程の英文表記）

第2条 研究科、専攻および課程の英文表記は次の各号のとおりとする。

- (1) 先端総合学術研究科 Graduate School of Core Ethics and Frontier Sciences
- (2) 先端総合学術専攻 Major in Core Ethics and Frontier Sciences
- (3) 一貫制博士課程 Doctoral Program in Core Ethics and Frontier Sciences

（教育研究上の目的）

第3条 本研究科は、現代の諸科学分野に共有された主題群をプロジェクト研究によって追求することを通じて、新たな研究領域の創出を担う先端的で総合的な知の探求者、制作者としての研究者を養成することを目的とする。

（入学時期）

第4条 本研究科の入学時期は、4月および9月とする。

（授業言語）

第5条 本研究科での授業言語は、日本語とする。

（科目区分）

第6条 先端総合学術専攻一貫制博士課程の授業科目は、基礎共通科目、基礎専門科目、サポート科目、プロジェクト予備演習科目、プロジェクト演習科目、他大学院科目および大学院科目に分類して配置する。

- 2 基礎共通科目は、基礎講読演習科目および応用講読演習科目に分類する。
- 3 基礎専門科目は、主題別講義科目および特殊講義科目に分類する。

（授業科目）

第7条 本研究科が自ら開設する授業科目の科目名、単位および授業方法ならびに科目区分による分類は、別表1のとおりとする。

（転入学以前に修得した単位の認定）

第8条 本研究科に転入学する以前に大学院において修得した科目の単位は、30単位を上限に、本研究科において履修し、修得したものとみなすことがある。

- 2 前項の規定により修得したものとみなす単位は、研究科教授会の議を経て、研究科長が認定する。

（一貫制博士課程の修了に必要な単位数）

第9条 先端総合学術研究科一貫制博士課程の修了に必要な単位数は、別表1より、「プロジェクト演習（8単位）」を含めて38単位以上とする。

（修士の学位を取得するために必要な単位数）

第10条 立命館大学学位規程第9条第2項により修士の学位を取得するために必要な単位数は、「プロジェクト演習」を除く別表1の科目より、「プロジェクト予備演習Ⅲ（2単位）」を含めて30単位以上とする。

（一貫制博士課程早期修了の申請）

第11条 大学院学則第35条ただし書きにより修了すること（以下「早期修了」という）を希望する者は、次の各号に定める書類を添えて研究科長に申し出なければならない。

- (1) 履歴書並びに研究業績一覧
- (2) 博士論文作成までの研究計画書

- 2 前項の申し出期日は、研究科教授会において定める。

(早期修了申請の認定)

第12条 研究科長は、前条の申し出があった者について、審査のうえ、研究科教授会の議を経て申し出を認めることがある。

(一貫制博士課程早期修了候補者の履修条件の緩和)

第13条 前条により一貫制博士課程早期修了の申請を認められた者（以下「一貫制博士課程早期修了候補者」という）は、次の各号に定める科目について配当年次にかかわらず履修することができる。

- (1) プロジェクト予備演習Ⅰ
- (2) プロジェクト予備演習Ⅱ
- (3) プロジェクト予備演習Ⅲ
- (4) プロジェクト演習

(一貫制博士課程早期修了の認定)

第14条 一貫制博士課程早期修了候補者が、修了を希望する学期の終了時に大学院学則第35条第1項の修了要件を満たした場合、研究科長は、研究科教授会の議を経て課程の修了を認めることができる。ただし、在学期間に関する修了要件は、大学院学則第35条第1項、第2項または第3項のただし書きの期間とする。

(改廃)

第15条 本研究科則の改廃は、先端総合学術研究科教授会の議を経て、大学協議会で行う。

附 則

1 この研究科則は、2012年4月1日から施行する。

附 則 (2012年3月16日 教学委員会の設置に伴う一部改正)

この研究科則は、2012年4月1日から施行する。

附 則 (2013年1月28日 改廃手続の変更に伴う一部改正)

1 この研究科則は、2013年4月1日から施行する。

附 則 (2014年2月8日 立命館大学学位規程の一部改正に伴う一部改正)

この研究科則は、2014年2月8日から施行し、2013年4月1日から適用する。

附 則 (2015年4月14日 「学校教育法及び国立大学法人法の一部を改正する法律」の施行に伴う一部改正)

この研究科則は、2015年4月14日から施行し、2015年4月1日から適用する。

附 則 (2016年2月19日 大学院学則の変更に伴う一部改正)

この研究科則は、2016年2月19日から施行し、2015年4月1日から適用する。

別表1

先端総合学術専攻一貫制博士課程

科目区分		科目名	単位数	授業方法	選択必修	配当年次	適用
I	II						
基礎共通科目	基礎講読科目	基礎講読演習Ⅰ	4	講義	選択	1	
		基礎講読演習Ⅱ	4	講義	選択	1	
		基礎講読演習Ⅲ	4	講義	選択	1	
	応用講読演習科目	応用講読演習Ⅰ	2	講義	選択	1	
		応用講読演習Ⅱ	2	講義	選択	1	
		応用講読演習Ⅲ	2	講義	選択	1	
		応用講読演習Ⅳ	2	講義	選択	1	
		応用講読演習Ⅴ	2	講義	選択	1	
		応用講読演習Ⅵ	2	講義	選択	1	
		応用講読演習Ⅶ	2	講義	選択	1	
	応用講読演習Ⅷ	2	講義	選択	1		

基礎専門 科目	主題別講義 科目	公共論史	2	講義	選択	1	
		公共論Ⅰ	2	講義	選択	1	
		公共論Ⅱ	2	講義	選択	1	
		生命論史	2	講義	選択	1	
		生命論Ⅰ	2	講義	選択	1	
		生命論Ⅱ	2	講義	選択	1	
		共生論史	2	講義	選択	1	
		共生論Ⅰ	2	講義	選択	1	
		共生論Ⅱ	2	講義	選択	1	
		表象論史	2	講義	選択	1	
		表象論Ⅰ	2	講義	選択	1	
	表象論Ⅱ	2	講義	選択	1		
	特殊講義 科目	特殊講義Ⅰ	2	講義	自由	1	
		特殊講義Ⅱ	2	講義	自由	1	
特殊講義Ⅲ		2	講義	自由	1		
特殊講義Ⅳ		2	講義	自由	1		
サポート科目	デジタルデザインⅠ	2	講義	選択	1		
	デジタルデザインⅡ	2	講義	選択	1		
	デジタルデザインⅢ	2	講義	選択	1		
	アカデミックライティングⅠ	2	講義	選択	1		
	アカデミックライティングⅡ	2	講義	選択	2		
	アカデミックライティングⅢ	2	講義	選択	2		
	アカデミックライティングⅣ	2	講義	選択	1		
	リサーチマネジメントⅠ	2	講義	選択	1		
	リサーチマネジメントⅡ	2	講義	選択	1		
	リサーチマネジメントⅢ	2	講義	選択	1		
プロジェクト予備演習 科目	プロジェクト予備演習Ⅰ	2	演習	選択	1		
	プロジェクト予備演習Ⅱ	2	演習	選択	2		
	プロジェクト予備演習Ⅲ	2	演習	選択	2		
プロジェクト演習科目	プロジェクト演習	8	演習	必修	3		
他大学院科目	単位互換履修科目	1~4	講義	自由	1		
大学院科目	大学院コーオブ演習	2	演習	自由	1		
	単位互換履修科目(随意)	1~6	講義	自由	1		

次の規程については、立命館大学 HOME >在学生の方へ >諸規程にて公開しています。

立命館大学学則

立命館大学大学院学則

立命館大学学籍に関する規程

立命館大学学位規程 等

先端総合学術研究科 博士予備論文執筆要項 (2021年度改訂)

1. 使用言語

日本語または英語

2. 字数

日本語論文の場合、40,000字程度（註を含む、文献表・図表は別）。

英語論文の場合、20,000語（words）程度。

3. 用紙

A4版。横書き。PDFあるいはワードデータで提出。博士論文提出の予行練習を兼ねて、表紙、中表紙、要旨（日本語のみ）、目次、本文をデータで提出。（英語で論文を作成した者も、要旨は日本語で作成）。表紙等のフォーマットはmanaba+Rからダウンロードして利用してください。

4. 体裁

- ① ワードプロ・ソフトを使用すること。
- ② 論文には目次を付けること。
- ③ 論文には頁数を記すこと。
- ④ 文献表・註記等に関しては、学術論文の慣行に従うこと。

5. 口頭試問

口頭試問の日程について2022年2月8日～10日。詳細は教授会の決定を受けて、後日連絡する。

6. 提出にあたって

(1) 提出物一式

- ・博士予備論文（PDF、あるいはワードデータで提出）

(2) 提出期限

2022年1月31日（月）午後5時

※6月末提出は例外措置です。この提出期限に従うこと。

(3) 提出方法

衣笠独立研究科事務室 doku-ken@st.ritsumei.ac.jp に送付。事務室はデータを受領し、担当教員へ送信するだけで中身は確認しないので、ワードからPDFにした際の文字化け等があっても関知しない。

7. 修士（学術）学位に関して

本研究科は一貫制博士課程ですが、修士で退学する場合は、提出する論文を修士論文として審査します。この場合は、論文提出時に「修士学位授与申請書」（押印必要）（所定用紙、manaba+Rにて配付）を提出して下さい。なお、**2021年11月30日（火）**までに退学することを申し出て下さい。

※審査に合格した論文は立命館大学図書館に保管されます。修士論文の場合は図書館保管用として紙での論文提出1部が必要となります。

8. 審査委員

論文の審査委員は主たる指導教員が主査で、副担当指導教員が副査となります。指導教員を変更する場合は、教授会で承認される必要がありますので、以下の日時までに届け出るようにしてください。届出用紙は「所属テーマ領域・指導教員 変更願」です。（所定用紙、manaba+Rにて配付）

提出締切：**2022年1月8日（水）午後5時**

以 上

退学する場合の修士号の扱いについて

2004年10月18日（掲示）

2007年02月09日（一部修正）

2008年04月08日（一部修正）

2014年03月04日（一部修正 下線部分）
先端総合学術研究科教授会

先端総合学術研究科 2年次修了時または2年次修了以降博士号取得までに退学する場合の修士号の扱いについて<申し合わせ>

ケース1) 2年次修了時に退学する場合

1. 該当する院生は、指導教員と相談のうえ、2年次11月末までに、博士予備論文について修士号学位授与の申請を予定している旨を、事務室に申し出るとともに「退学届」を提出する。
2. 1月末日に博士予備論文提出の書類に加えて、修士学位授与申請書を提出する。
3. 研究科教授会は審査委員会を設けて、論文審査を行ない、2月中旬に口頭試問を行なう。
4. 審査委員会は、研究科委員会に審査の結果を報告する。研究科教授会における学位授与の議決は、構成員の2/3以上の出席、その2/3以上の賛成を得るものとする。修士学位授与の決定は、研究科教授会の議を経て、大学院委員会で承認される。

ケース2) 2年次修了時に博士予備論文が「合」となった後、3年次以降で退学する場合

1. 該当する院生は、指導教員と相談のうえ、当該年度の前期セメスター最終日付で退学する場合には5月末までに、後期セメスター最終日付で退学する場合には11月末までに、修士論文学位授与の申請を予定している旨を、事務室に申し出るとともに「退学届」を提出する。
2. 原則として、博士予備論文として提出したものを修士論文に読替えて審査を行う。博士予備論文提出時と同様の書類に加えて、修士学位授与申請書を提出する。但し、研究科教授会が必要と認める場合には、2年次修了時に提出した博士予備論文にそれ以降の研究成果をもとに加筆修正して提出することができる。
3. 研究科教授会は審査委員会を設けて、論文審査を行ない、8月もしくは2月中旬に口頭試問を行なう。但し、やむを得ない事情がある場合で、研究科教授会が認めたときには口頭試問を免除することができる。
4. 審査委員会は、研究科委員会に審査の結果を報告する。研究科教授会における学位授与の議決は、構成員の2/3以上の出席、その2/3以上の賛成を得るものとする。修士学位授与の決定は、研究科教授会の議を経て、大学院委員会で承認される。

ケース3) 2年次修了後、博士予備論文が「否」あるいは未提出のまま、3年次以降で退学する場合

博士予備論文が否であった者は、修士学位授与申請書とともに、博士予備論文を再度提出し、修士論文に読替えて審査を受けることができる。また、未提出であった者についても修士学位授与申請書とともに、博士予備論文を提出し、修士論文に読替えて審査を受けることができる。その際の手続きはケース2の1、3、4と同様とする。

なお、博士予備論文構想発表会の発表が有効である1年を超えた場合、修士学位授与申請はできません。

注：「立命館大学学位規程」第3章修士

第14条 修士論文の審査及び試験はその在学期間中に終了するものとする。

したがって、例えば、2年次に博士予備論文が「合」となり3年次前期に学費を納入しないまま前期未納除籍となる場合には、修士号は与えられない。

以上

先端総合学術研究科「課程博士」学位論文の提出要領〈2021年度改訂版〉

1. 審査に関する関連規程

以下の規程に基づいて審査を行うので、これらをよく読んで確認しておくこと。

- ①『立命館大学大学院学則』
- ②『立命館大学学位規程』
- ③『文・社系研究科における課程博士の学位申請要件に関する申し合わせ』
- ④『先端総合学術研究科博士学位（甲号）の授与に関する運用内規（2021年度改定版）』

2. 「課程博士」審査対象となる要件

「課程博士」学位授与の申請にあたっては、以下の要件を満たしていなければならない。

- ①修了に必要な単位数、38単位を修得見込みであること。「プロジェクト演習」の単位修得のためには当該科目を1年以上履修していることが必要である。
- ②主題に関わる学術論文について、次の要件を満たしていること。
 - a) 申請の時点で、学術雑誌*において論文3篇以上**が受理（掲載決定）されていること。
 - * 原則的にレフェリーつきの「学会雑誌」や『コア・エシックス』をさす。その他の雑誌、刊行物所収の論文を「3篇」のうちに加える場合には、当該論文が、質・量ともに、上記、「学術雑誌」掲載論文に準じることを確認するため、受理審査委員会の権限において、指導教員に確認文書の提出を求めることとなっている。
 - ** 「論文目録」参考論文の欄に論文題目・掲載雑誌名を記載し、抜き刷りまたは、コピーを2部ずつ添付すること。
 - b) 刊行予定については、掲載決定証明を添付すること。
- ③原則として学位授与申請を行う前 Semester までに、「博士論文構想発表会」を行っていること。「博士論文構想発表会」は原則として7月、2月の「博士予備論文構想発表会」開催時に行うこととする。合否は9月、3月の成績発表の時期にあわせて、発表者に個別に伝達する。
- ④学位論文は、国際的水準に達していること。

3. 学位授与に関する日程

博士学位請求論文提出締切

4月提出	2021年04月30日（金）午後5時
9月提出	2021年09月24日（金）午後5時
10月提出	2021年10月15日（金）午後5時
3月提出	2022年03月24日（木）午後5時

※「博士学位請求論文提出予定書」を上記日程の3週間前までに提出のこと。

審査の流れ（予定）

- ①「博士学位請求論文提出予定書」の提出
- ②学位授与申請・論文提出
 - 自己負担による簡易製本（美濃黒表紙可）4部による論文提出。
 - ※博士学位申請者の氏名および論文題目は公表することを原則とする。公表できないなんらかの理由がある場合は指導教員に相談すること。「博士学位申請論文提出予定書」に記載のこと。

- ③研究科教授会で受理審査委員会の報告を受けたのち、受理の可否を判断
学位授与申請締切日直後の火曜日の教授会で審議予定。
- ④博士学位請求論文の縦覧（研究科教授会所属教員対象）
受理の可否決定後に可となった学士申請論文について学位授与の可否審査の教授会議決まで。
- ⑤審査委員会による口頭試問（関連科目・外国語の試問を含む）一人 90 分程度。
- ⑥公聴会の開催（一人 60 分程度：発表 30 分、質疑 30 分）
日時、場所、論題、発表者の案内は実施日 1 週間前までに公示。
- ⑦誤字・脱字等を修正した最終版の製本用論文（**両面印刷 4 部**）提出
大学費用負担で保存分 4 冊を製本（大学→製本業者）（8 月上旬/2 月上旬（※大学院学位委員会開催日により変動） ※保存先：大学院課、大学図書館、先端総合学術研究科
- ⑧研究科教授会での審議・議決 7 月下旬／1 月下旬
- ⑨大学院学位委員会における審議・議決 9 月上旬／3 月上旬
この結果を受けて、学位授与の可否を大学院課から申請者に連絡と式典の出席調査。
- ⑩学位授与式 10 月初旬／3 月下旬
- ⑪学位を授与された者が博士論文書籍化・公表等 授与日から 1 年以内
審査前に公表の場合は申請論文である旨が示してあること。

4. 論文提出、申請時期を 3 月にする場合 ※.....が異なるので注意のこと。

①2009 年度以前入学者の場合（3 月末で退学）

「博士学位請求論文提出予定書」提出締切：2022 年 2 月 25 日（金）午後 5 時

「退学願」提出締切：2022 年 2 月 25 日（金）

学位論文提出締切：2022 年 3 月 24 日（木）午後 5 時

審査：4 月～7 月

学位授与（甲号）：2022 年 3 月 31 日付（修了日付は遡る。）

学位授与式：2022 年 10 月 1 日（土）AM <予定>

②2010 年度以降入学者の場合（春学期 Semester 在学）

「博士学位請求論文提出予定書」提出締切：2022 年 2 月 25 日（金）午後 5 時

学位論文・締切：2022 年 3 月 24 日（木）午後 5 時

学位授与（甲号）：2022 年 9 月 25 日付（修了日付けは遡らない。）

学位授与式：2022 年 10 月 1 日（土）AM <予定>

重要

2010 年度以降に入学した者および 2012 年度以降に 3 年次転入学した者は、**特別在学料**を納付し、審査中の Semester に在学する必要があります。また、2009 年度以前に入学または 2011 年度以前に 3 年次転入学した日本国以外の国籍を有する者で、在留資格延長のための論文審査中も引き続き在学を希望する者は**特別在学料**を納付すれば在学できる。なお、この場合、在学の学期末の学位授与となります。

5. 関連科目と外国語の試験

学位授与申請を行った者が授与の対象としてふさわしいかどうか、学力の確認を行う。

①関連科目

博士学位請求論文の審査を中心に他の学術論文・業績を含めて、口頭試問による確認を行う。

②外国語（原則として2種類）

研究科で統一した筆記試験は実施しない。審査委員会が、個々に学力確認を行う。

確認の方法は以下の通り。

- ・口答または筆答による試問
- ・学位論文の内容
- ・申請者による外国語の論文や翻訳の内容
- ・その他申請者の語学力を確認できる資料がある、など

6. 「課程博士」学位申請書類について

課程博士学位申請書類は、全研究科統一の書式になっているので、あらかじめ書類を入手し（manaba+Rにて配付）作成、手続きをすること。

以 上